



令和4年10月25日

小牧市議会議長 様

会派名 牧政会  
代表者氏名 小島倫明

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

小島倫明、舟橋秀和、玉井宰、木村哲也、鈴木裕士、石田知早人

2 日程

令和4年10月13日（木）～10月14日（金）

3 研究・研修名

第84回全国都市問題会議

4 主催者

全国市長会

公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所

公益財団法人 日本都市センター

長崎市

5 会場

長崎県長崎市尾上町4-1 出島メッセ長崎

6 受講の目的

「また訪れたくなる、何度でも訪れたくなる」魅力ある地域づくりのための基本的な考え方や処方箋を検討すること

7 主な内容

① 基調講演 民間主導の地域創生の重要性

株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼 CEO 高田旭人

② 主報告 長崎市の魅力あるまちづくり

長崎県長崎市長 田上富久

③ 一般報告 地域との関わり方・関係人口

島根県立大学地域政策学部准教授 田中輝美

- ④ 一般報告 ビジョンを活かしたまちづくり  
～「選ばれる山形市」を目指して～

山形県山形市長 佐藤孝弘

- ⑤ 一般報告 「交流の産業化」を支える景観まちづくり  
～長崎市景観専門監の取り組み～

一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事 高尾忠志

- ⑥ パネルディスカッション 個性を活かして「選ばれる」まちづくり  
～何度も訪れたい場所になるために～

東京都立大学法学部教授 大杉 覚

ゆとり研究所長 野口智子

山梨大学生命環境学部教授 田中 敦

NPO 法人長崎コンパドル理事長 桐野耕一

岐阜県飛騨市長 都竹淳也

兵庫県伊丹市長 藤原保幸

#### 8 所感・提言・課題等

我が国では、少子高齢化、労働人口減少、地域経済の衰退など各自治体は様々な課題に直面している。本市においても例外ではなく、将来にわたって持続可能な都市となるために、人口の量的な維持・拡大を図るべく様々な分野において諸課題に取り組んでいる。

今回の会議においては、本市が、将来的に移住・定住先としての選択肢になることを視野に入れ、人々が訪れ、集まり、交流する場所として選ばれるような個性を活かした魅力ある地域づくりについて、基本的な考え方や処方箋を検討する機会となった。

会議では、「民間主導の地域創生の重要性」と題し、(株)ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼 CEO 高田旭人氏より、地元長崎を盛り上げるために人口を増やし、経済を活性化し、地域資源を活用して地域の魅力を広げ伝えていきたい旨の基調講演があった。「長崎スタジアムシティプロジェクト」推進により、スポーツ・地域創生事業を掲げ、官民とそこに住んでいる地域住民とが連携し、手を取り合いながら、地域全体の幸福の総量を増やしていきたいと熱く語っていた。

また、長崎市長の田上富久氏より「長崎市の魅力あるまちづくり」と題して主報告があった。わがまちの(1)価値を見つける(2)価値に気づく(3)価値を磨く(4)価値を生み出す、という4つの視点で長崎市の価値を

### 3 研修会関係

見つめ直し、価値の気づく契機には、「交流」が欠かせない。交流をすることにより、暮らしている中では見つけにくいその都市ならではの自然、文化、歴史などの新たな価値が見つかり、磨かれ、まちの価値が創られていくとのことであり、共感を覚えた。

パネルディスカッションでは、「選ばれる」まちづくりに向けた都市自治体のアプローチとして、「それぞれの地域で醸成されてきた、根っこにある地域価値を再確認しつつ、そこを起点にして、これからの未来図を思い描き、その実現を試みようとする、価値実現のプロセス」だと定式化して考えることができ、「根っこにある地域の価値」を出発点に問うことであるとしている。

「選ばれるまちづくり」については、本市は、小牧市まちづくり推進計画において、多くの人々や企業から「訪れたいまち」「住みたいまち」「住み続けたいまち」として、まちの魅力を向上させるブランド戦略が推進されている。「子育てしやすいまち」と「史跡小牧山」をブランドの柱と定め、継続居住意向を高めること、その一因となっている小牧市民の「小牧市への愛着や誇り」を高めることを目標に取り組んできた。

「子育てしやすいまち」として令和3年に「こまきこども未来館」や「小牧中央図書館」が中心市街地にオープンし、市内外より多くの来場者で賑わいをみせている。また、「史跡小牧山」の麓には「れきしるこまき」がオープンし「小牧市歴史館」と共に市内の観光の中心地として整備が進められてきた。

本市が「訪れたいまち」として成長していくためには、ジャパネット社長高田氏の言われるよう、官民とそこに住んでいる住民の連携が必須であると考えます。今後、特に注目される民間施設として、「小牧オアシス」がある。コンセプトとして、「小牧に親しみを抱く多様な人々が、話題性のある様々な体験交流を通じ、心身の活力と地域力を高める賑わいコミュニティ拠点を目指す」としており期待される。行政は、皆が公平平等に恩恵を受けられる環境づくりが必要であるのに対し、民間ならではのダイナミックな取組をすることが可能である。

本市も「訪れたいまち」「魅力ある地域づくり」は、現在進行形で様々な試みが行われている。今回の会議を通じて、それらの取組に共通する要素や取組をより発展させるための必要な視点に着目しながら、議会としても議論を深めつつ、魅力ある地域づくりを推進していきたい。